

経営比較分析表（令和6年度決算）

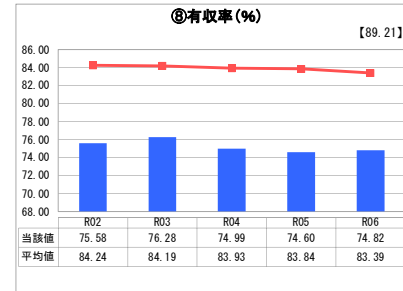
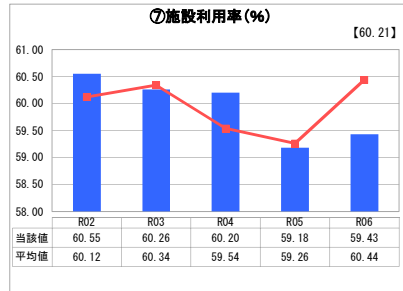
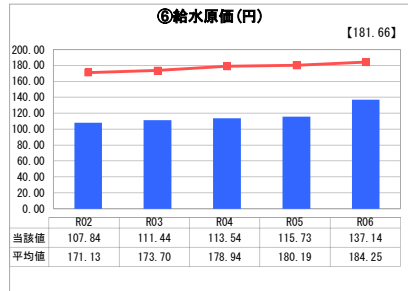
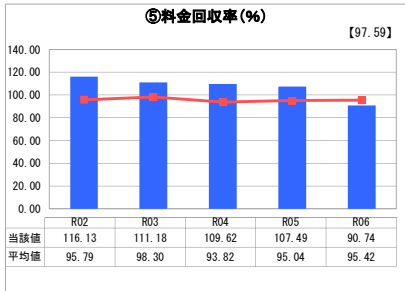
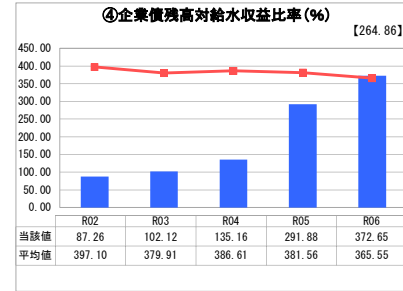
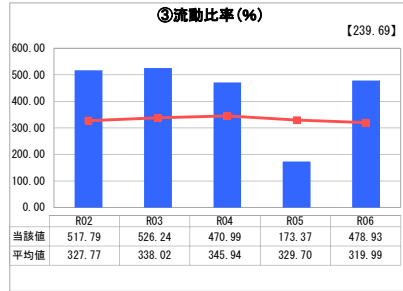
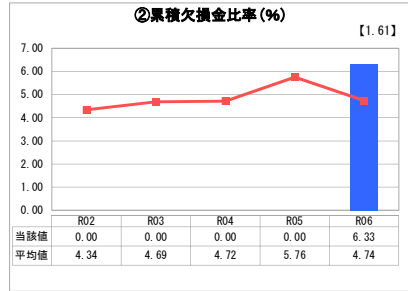
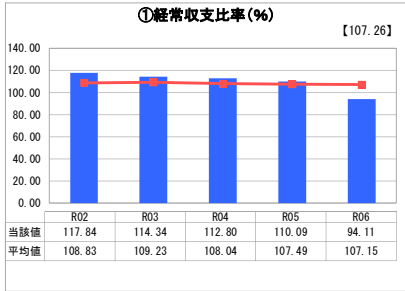
静岡県 函南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	70.06	89.00	2,090	

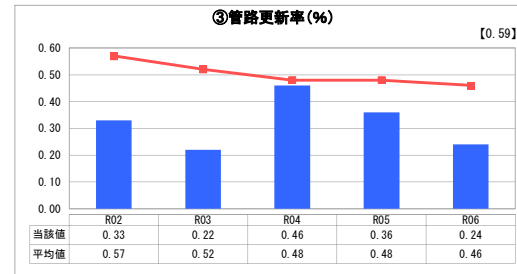
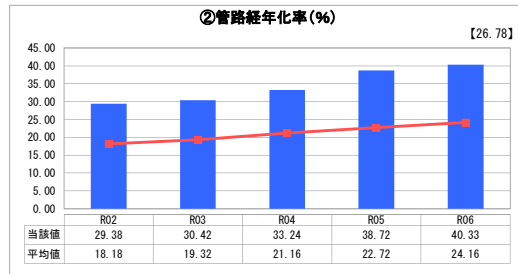
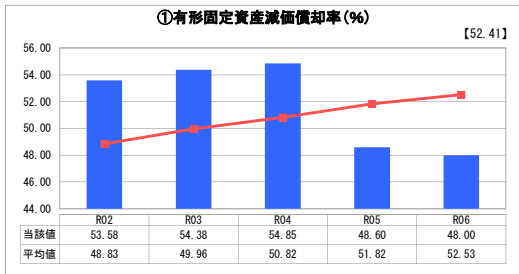
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
36,105	65.16	554.10
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
32,046	15.55	2,060.84

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を下回っており、単年度の収支が赤字であるため、経営改善に向けた取り組みが必要である。今後も水需要の減少、人件費や維持管理費の増加が見込まれるため、料金改定の検討等、経営の安定化が求められる。

②令和6年度決算において、浄水場更新工事に伴う減価償却費の増により累積欠損比率が大きく上昇した。水道施設や管路の更新が求められる中、料金改定の検討等、収益を上げて経営を安定させる必要がある。

③流動比率は100%以上であり平均値を上回っており、短期債務に対する十分な支払能力を有している。

④企業債残高対給水収益比率は、令和5年度に施設の更新工事に伴う起債により大きくなっているが、平均値程度となっている。今後は、施設の更新を継続的に実施していくため増加することが見込まれる。

⑤料金回収率は100%を下回っているため、今後、経費削減と共に料金改定の検討が必要である。

⑥給水原価は上昇傾向であるが、全国平均、類似団体平均を下回っている。今後は計画的、効率的な水道施設の維持管理等に努め、支出の抑制を目指していく必要がある。

⑦施設利用率は水需要の減少等により減少傾向にあるものの、平均値と概ね同程度である。今後は施設更新に併せて適切なダウンサイジングの検討が必要となる。

⑧有収率は全国平均、類似団体平均値を下回っている。有収率の低下の主な要因は老朽管からの漏水と想定されるため、管路更新計画に基づいた効率的な管路更新を推進していく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、令和4年度までは平均値を上回っており増加傾向にあったが、令和5年度の施設の更新工事による償却資産の増加に伴い改善されている。しかしながら、今後も施設更新計画や管路更新計画に基づいた計画的な施設や管路の更新を推進していく必要がある。

②管路経年率は、年々上昇しており、平均値を上回っていることから、管路更新計画と上下水道耐震化計画に基づき計画的に老朽管の更新を推進していく必要がある。

③管路更新率は平均値を下回っている。工事費自体は近年増額傾向であるが、物価高騰に伴う工事単価の上昇や、鉄道軌道下の推進工法による布設替工事の実施等により数値は低くなっている。

全体総括

上記記載のとおり、近年経営状況は厳しい状況となっている。今後も水需要の低下が見込まれる中、施設や管路の更新、耐震化を進める必要があり、その財源確保が課題となっている。そのため、料金改定の検討を含め、財政の見直しを把握することが必要であると認識している。

老朽化については、施設、管路ともに老朽化が進んでいくため、施設更新計画や管路更新計画、令和6年度に更新した経営戦略に基づき、計画的、効率的に更新を進めていく必要がある。また、更新にあたっては、水需要に見合った適切な規模を検討し、更新費用の抑制を図る必要がある。